■ 唐木仏壇

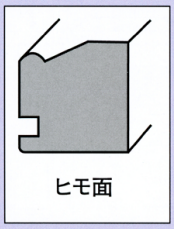
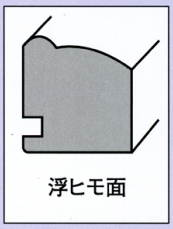
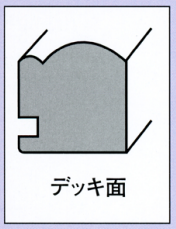
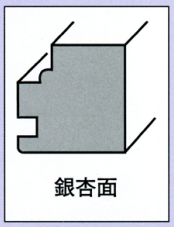
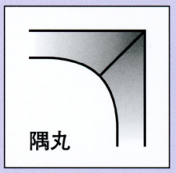
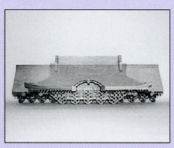
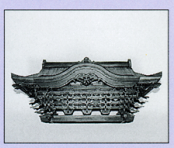
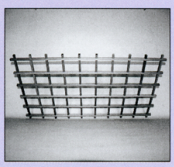
わが国で仏壇を祀るようになったのは、今から遠く遡ること一千年以上も前、天武天皇の時代にそのルーツを見ることができます。有名な法隆寺の玉虫の厨子は最古の仏壇としてよく知られています。
仏壇が一般の民衆に広まるのは、それからかなり後のことです。室町時代になると浄土真宗の蓮如上人が各家庭に仏壇をまつるよう説いたため、まず浄土真宗の門徒の間に仏壇が広まりました。これが金仏壇のはじまりです。さらに江戸時代に入ると檀家制度の定着により、浄土真宗系以外の宗派にも仏壇が広まります。
明治時代に入り浄土真宗系以外の宗派で、各宗派の持ち味を出そうと作られたのが唐木仏壇です。唐木仏壇は金仏壇と違って金箔などの豪華な装飾があまりなく、その代わりに木目の美しさが生かされているのが特徴です。黒檀・紫檀・鉄刀木などの唐木のほか屋久杉・桑・欅・桜などの素材も使われます。
現在、徳島は、全国第一位の産地を誇っています。

●唐木（からき）とは…

高級家具、細工物などに賞用されている木材につけられたグループ名で、黒檀・紫檀・鉄刀木などのことをいいます。
唐木という名は、かつてこの木材が輸入されはじめた時期、東南アジアから中国人の手を経て取り引きされていたり、中国の工芸品に多く利用されていたことから、唐から来た木材、あるいは唐の工芸品に多く用いられているという意味でつけられたものと思われます。

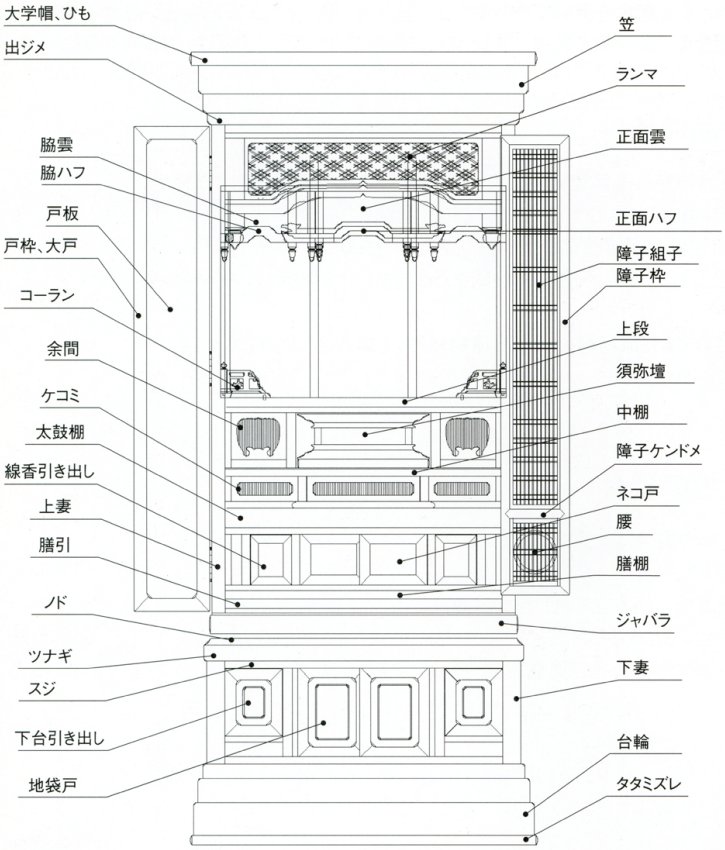
■ 唐木仏壇の価格

低　価　格 ⟶ 高　価　格

本体	芯材	ボード・合板		ポプラ	セプター	唐木
	表面	紙・塩ビ・転写		ツキ板貼り	前練り　三方練り	総ムク
戸障子	材質	紙・塩ビ・転写	ツキ板貼り	前練り	二方練り　三方練り　四方練り	総ムク
	面加工	かまぼこ面	 ヒモ面	 浮ヒモ面	 デッキ面	 銀杏面
		角面	 隅丸	もっこ面		
	戸板	紙・塩ビ・転写		ツキ板貼り	ムク	ムク・裏飾り入り 切り込み障子
彫刻	材質	プラスチック		白木	唐木前練り	唐木ムク
	彫り	浅彫り			中彫り	深彫り（両面彫り）
屋根廻り	マス		前マス 	三方マス	空殿（和木）	空殿（ムク） 
	天井		平格天 		折り上げ格天	

※海外製品は必ずしもこの表に該当しない場合があります。

■ 唐木仏壇各部分の名称



■ 唐木の使い方

黒檀・紫檀・鉄刀木などの唐木は、近年極めて貴重な素材となっています。総練りで造られた唐木仏壇は、今や最特上品と言えます。

このほか唐木の使い方としては、つぎのような方法があります。

【練り工法】芯材の上に厚さ5～7㎜もある厚いムク材を貼り合わせる方法です。これは、ツキ板貼り工法に比べてはるかに高級感が得られます。

【ツキ板貼り工法】厚さ0.2㎜程にスライスした唐木を芯材に貼り合わせます。

【転写】白木に唐木の木目を印刷する転写といわれる方法です。色あせのおそれがあります。

【塩ビシート】木目が印刷された塩ビシートを用いた安価な商品です。はがれのおそれがあります。

なお、こうした唐木の使い方の分類は、主として戸障子（戸軸部分）の処理についていわれるものです。

総練り
全てムク材を使用しています。

四方練り
芯材に四方から唐木を貼り合わせています。

三方練り
芯材に三方から唐木を貼り合わせています。

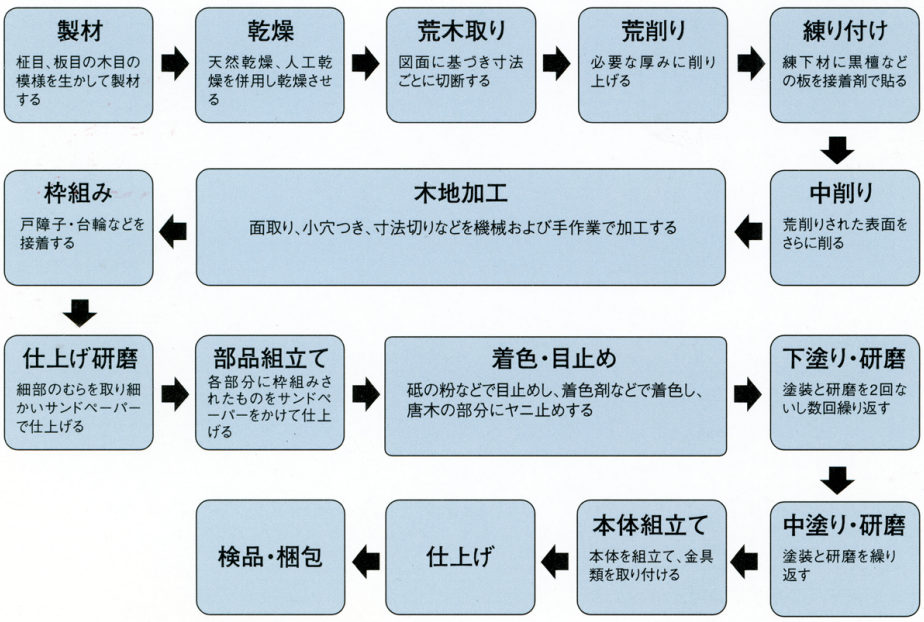
二方練り
芯材に二方から唐木を貼り合わせています。

前練り
芯材に前方向から唐木を貼り合わせています。

■ 唐木仏壇のできるまで

唐木仏壇ができるまでには、様々な工程と熟練工の技が必要です。製造工程は、主として木地工程・彫刻工程・塗装工程に分類することができます。下の図は徳島の唐木仏壇の代表的な製造工程の例です。さらに各社各様の工夫と技術がもりこまれ、梱包、出荷されます。

●仏壇の製造工程



●仏壇塗装

仏壇塗装を大きく分ければ、材質の特色を素朴に美しく引き出すオープン仕上げと鏡面仕上げとがあります。いずれにしても仏壇の美しさを引き出す塗装は最終工程における職人芸の極地を示す方法です。

【オープン仕上げ】

漆工技術のひとつである摺り漆仕上げを漆ではなく化学塗料で行うもので、最近の高級唐木仏壇の仕上げの主流となっています。塗装の度に研磨を繰り返し、木地の表面を平らにします。オープン仕上げの最終工程は水ペーパー仕上げによるもので、材質の美しさ、特色を最大限に引き出し木地が元来もつ風合いをそのまま見せます。

【鏡面仕上げ】

厚めの塗装面で仏壇の木地を保護するのもですが、鏡面状の塗装面は一層仏壇本体の豪華さを引き立てます。

■ 唐木仏壇に使われる銘木

唐木仏壇は、黒檀・紫檀・鉄刀木などの外国から輸入されたいわゆる唐木を用いて作りますが、屋久杉・桑・欅などの銘木といわれる和木を用いて製造する仏壇もあります。ここでは唐木仏壇と和木仏壇を総称し、銘木仏壇と呼びます。銘木といわれるためには、●格調が高い ●強度が大きく耐久性に優れている ●虫害が少ない ●乾燥性がよい ●木質が緻密で木目が美しい ●時を経るうちに気品が高まる などの条件をみたす必要があります。仏壇で使われる銘木には、つぎのようなものがあります。

黒檀（こくたん）

【産地】インドネシア

黒檀には本黒壇、縞黒壇、青黒檀などがあり、本黒檀は本来インド・スリランカで産出される漆黒の材料をさす。現在の産出量は極めて少ない。これに対して、縞黒壇は現在の代表的な黒壇であり、仏壇で使われる黒壇もこれである。
戦前から今日までインドネシアのスラウェシ島で産出されるものが最も有名である。

紫檀（したん）

【産地】ラオス、タイ、ベトナムなど

黒檀と同格の銘木である。紫檀は正倉院御物にある唐木細工の中で最も多く見られるものであり、古くから珍重されてきた。かつて紫檀の呼称が混乱していたことがあり、現在でも仏壇店で本紫檀、手違紫檀、パーロッサなどがすべて紫檀として扱われている状況も存在している。現在では大木は少ない。

鉄刀木（たがやさん）

【産地】東南アジア、アフリカ、中米、西インド諸島など

造林によってアフリカでも産出される。鉄刀木は比較的容易に造林できるので、明治時代には台湾で植えられている。鉄刀木をどうして「たがやさん」と読ませるのかははっきりしていない。辺材は淡黄白色で、心材は紫黒色、黒褐色である。辺材と心材の色の差は明瞭。

屋久杉（やくすぎ）

【産地】日本（屋久島）

屋久杉は屋久島に自生しているが、樹齢千年を越えるものが特に屋久杉とよばれる。樹齢千年を越えるものは、百本に4・5本とされる。屋久杉の大半は杢を持ち、その杢も笹杢、波杢、うずら杢などに分類される。
材質は濃茶色で独特の木の香りを放つ。また、油脂分が多いことも特徴で、大変腐りにくい性質を持つ。

桑（くわ）

【産地】日本

桑は樺太・北海道から九州にいたるまで自生しているが、銘木として使われる材は極めて少ない。桑の中でも特に良材とされるのは伊豆諸島の御蔵島や三宅島で産出される「島桑」である。年輪が緻密で美しい杢目と粘りのあることで知られている。目が細かく材が美しいことから江戸時代から江戸指物などに用いられてきた。

欅（けやき）

【産地】日本

欅は木目が明瞭で美しく、強度があり耐久性があることから、古くから神社仏閣の建築材料として使われてきた。広葉樹の中では極めて整った樹形をしており、北海道を除く全国に自生している。現在、銘木として取り扱われる標準的な欅は胴回り3m前後のものであるが、欅独特の杢が見えてくるのは樹齢三百年以上のものとされる。

シャム柿（しゃむがき）

【産地】中南米

ゼリコーテ（シリコテ）。
カキノキ科の樹木。元来はタイから輸入されていたのでこの名前があり、赤黒い濃淡の模様を持つ。最近では中南米からの輸入材で良く似た「南米桑（Freijo・フレイジョ）をシャム柿と呼んでいる。フレイジョは南米チークとも呼ばれ心材はくすんだ暗黄褐色。

黄王檀（きおうたん）

【産地】南米

現地名はPau amarello（パウアマレロ）。南米桑とも呼ばれるみかん科の植物。鮮黄色に黒の模様が入った材料。南米材。目黒雅叙園でも使われている数ある南米銘木のうちのひとつでもある。

楠（くすのき）

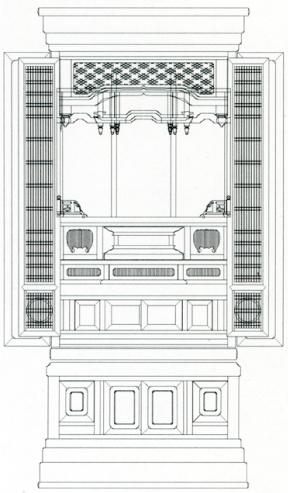
【産地】日本

楠は直径2mにもなる常緑喬木で、防虫効果のある材料として知られている。いわゆる樟脳の原料となる木であり、赤褐色の心材で作られた箪笥などは衣類の保存用として最適である。材質は柔らかく、杢目の美しい幅広の材料を得ることができる。飛鳥時代に作られた仏像の多くは楠を材料としている。

槐（えんじゅ）

【産地】日本（北海道）

槐はマメ科に属する落葉樹で、樹高は15m、直径は60cm程度。山野に自生し、国内では主に北海道で産出される。関東以北の農家では古くから鬼門除けとして植栽されてきた。槐は明治以前から床柱などに使われ、その多くは表面を染色、塗色され、置棚、本棚、机、卓などの指物に用いられてきた。



■ 唐木仏壇の修理とお手入れ

- **日常のお手入れは、毛羽たき、または柔らかい布でから拭きをしてください。また、ひどい汚れの場合は、仏壇の材質によってお手入れ方法が異なりますのでメーカー側にお尋ねください。**
- **仏壇は木製品のため、湿気、直射日光を避けてください。**
- **商品流通の安全のため、PL（製造物責任）賠償保険加入の商品を推奨します。**